



通所支援事業の ひとコマ



今年も梅雨の時期が到来し、ジメジメと蒸し暑い日が続いていますね。水分補給など暑さ対策をしっかりして、体調管理を行っていきましょう。さて先月、通所では中庭で育てたイチゴ鉢をベッドサイドに運んで「イチゴ狩り」を行いました。真っ赤で美味しそうなイチゴを前に、目をキラキラと輝かせる利用者さんの姿が見られました。本物のイチゴの感触を楽しんだり、匂いをかいでみたりと様々な体験をすることができました。季節を感じられるととてもいい機会になったと思います。今後もその

ような機会をたくさん作り、利用者さんの生活に少しでも彩りを与えることができましたと思います。通所では、他にもジャガイモやパクチーなどさまざまな農作物やお花を育てていますので、是非近くに来られた際は花壇を覗いてみてくださいね！

(児童指導員 森 日奈子)



2病棟の子どもたちの生活のひとコマ

カラフルに咲いたチューリップもすっかり終わり、しとしと雨の降る梅雨の季節になりましたね。新学期がスタートしたこども達は、生活リズムが整うよう毎日隣接する特別支援学校に登校しています。大人でも休み明けの仕事は一步が重くなることがあると思いますが、こども達も好きな授業を思い浮かべながら、学校生活に慣れて過ごしていけるような関わりをしています。

さて、ただ今展示中の『2病棟スマイルフラワー展』はご覧頂きましたでしょうか？今回はこども達の制作品を使って、行楽シーズンにぴったりの『おべんとうやさん』をオープンしました。ティッシュの空き箱をお弁当箱に見立て、色々な紙廃材を使っておにぎりやおかずを作り詰めています。「ツナマヨが好き」「酸っぱい梅干しにしよう」「このおかずなーんだ！」と、こども達の声がたくさん飛び交い、楽しい雰囲気に参加する姿がありました。「何か野菜が少ないな…」と入院中に学習したことを活かして制作する姿も見られ、成長を感じられるひとときでした。個性豊かなお弁当をお楽しみください。

(保育士 森田 清香)



糖尿病ワンポイントアドバイス No.11

～インスリン療法～

インスリンは、膵臓から分泌されるホルモンで、血糖値を下げる作用があり、不足すると糖尿病を発症します。今から約100年前にインスリンが発見され、高血糖の患者さんの命をインスリン注射で救えるようになりました。その後さまざまな種類のインスリン製剤が発売され、治療の選択肢が増え、現在もどんどん進化しています。

「インスリンは重症になってからの治療だ」、「一度使いだすとやめられない」という誤った認識や、注射の恐怖心や煩わしさなどから、インスリン療法が必要でも敬遠される場合があります。しかし、インスリン療法で血糖コントロールすることで、膵臓のインスリン分泌の回復や、糖尿病合併症の予防効果を期待できます。

インスリン療法が必須な場合は、インスリン依存状

態にあるとき(1型糖尿病など)、高血糖性の昏睡、重症の肝・腎障害があるとき、重症感染症、手術時、糖尿病合併妊娠などです。必須でなくてもインスリン治療が望ましい場合は、著しい高血糖を認める時や、経口薬療法のみでは良好な血糖管理が得られない場合などです。積極的に糖毒性を解除したいときも使用します。

インスリン療法では、低血糖時の対応や、シックデイ(体調不良で血糖値が乱れやすい状態)時のインスリン量の調整など、患者様自身が主体的に取り組まなければならないことがあります。しかし、自己血糖測定で、血糖値の流れを把握し、自分の病態と向き合う良い機会になります。インスリン療法は外来でも行えますが、必要時は糖尿病教育入院も行います。インスリン療法を勧められた場合、主治医とよく相談し方針を決定しましょう。(糖尿病・内分泌内科 橋本 礼)